

外邦図の地理的想像力

—仏印進駐の系図—

大塚直樹（アジア地域研究所・特任研究員）

丸山宗志（立教大学大学院観光学研究科観光学専攻）

1. はじめに

本論文は、旧日本帝国軍が複製・作製した外邦図を手がかりとして、仏印進駐の空間的パースペクティブを明らかにすることを目的とする。

仏印進駐に関する先行研究では、主に仏印進駐の歴史的プロセスが明らかにされてきた。たとえば、吉沢（1986a）は、北部仏印進駐から南部仏印進駐という二つの戦争拡大過程と、戦争遂行・指導集団の内部対立について分析し、こうした組織内部の対立や抗争が戦争拡大の衝動につながったことを指摘した。また、白石・古田（1976）は、日本のインドシナ政策の具体的な特徴として、仏印進駐から1945年3月までフランス植民地政権の温存されていたこと、1945年3月9日にフランス植民地政権を打倒（仏印処理）した後、インドシナ3国に対して「即時独立付与」したことを指摘した。

経済的側面からの分析としては、田渕（1980；1981）や白石（1986）らが帝国日本の仏印進駐が有する重商主義的な資源収奪型の性格について言及している。具体的には、仏印進駐が帝国日本への食糧供給を政策的に意図していたこと、実際にインドシナ米が日本へ輸出されていたことを指摘した。また吉沢（1986b）は、仏印進駐に参加した軍人や軍属へのインタビュー調査（オーラル・ヒストリー調査）を実施し、仏印へ渡った「日本人」の個人史と史料との摺り合わせをおこない、当時の仏印における経済支配の状況を農業指導に従事した人びとなどの視点から明らかにした。同時に、同書では植民地台湾出身者の事例などを用いつつ、仏印進駐のもつ歴史的多面性を明らかにした。

本稿では、仏印進駐によって引き起こされた人の移動、特に軍人・軍属の移動の空間的なパターンを、現在、入手可能な外邦図に依拠して検証してゆく。1990年代以降、外邦図の存在が注目されるようになり、その歴史がひも解かれ始めた。外邦図の系譜については、すでに小林ら（小林編、2009；小林、2011）により網羅的な研究が行われており、その全貌が明らかになりつつある。

軍事目的に複製・作製された外邦図は、二次元に刻まれた地球の一部を表象である。したがって、当然のことながら、外邦図それ自体から人の移動を読み解くことはできない。しかしながら、地図を地理的想像力の産物として捉え、地図が作製されたプロセスを追うことで、人びとがどのように移動したか、ないし移動しようと試みて地図を作製したのかを把握することは可能となろう。

『人文地理学事典』（The Dictionary of Human Geography）によれば、地理的想像力とは「地球上で生活してゆく上での（in the constitution and conduct of life on Earth）、場所、空間、景観そして自然の重要性に対する感受性」と定義される。したがって、地理的想像力とは、地理学の内部における排他的な概念というより、広く社会に共有されうる視点といえよう。

文化論的転回以降における場所・空間論の立場からみると、地理（学）的想像力とは、「近現代におけるわれわれの社会が空間・風景・場所をつくりだし、また空間・風景・場所がわれわれの社会形成の契機となってきた」（荒山、1998：ii）と捉える立場であり¹、「生きられる経験と思考される空間との間に介在し、両者の空隙を埋めるような、つまり空間的諸関係のなかに自らを接続、再接続する主体の空間的实践」（加藤、2002：103）と措定される。

以上を本稿に即すれば、旧日本軍が外邦図の複製・作製を通じて、ベトナム（当時は仏

領インドシナ) という社会空間をどのようにまなざしたのか、その歴史的なプロセスを記述することで人の移動の空間的パースペクティブを明らかにしてゆくことと言え換える。具体的に、まず次章で仏印進駐の歴史的プロセスを概観する。その上で、仏領インドシナの外邦図の所蔵状況を確認し、外邦図のデータベースを用いて、地図に刻まれた「歴史」を読み解く。ここでいう「歴史」とは、仏領インドシナの外邦図全体を一つの資料として位置づけ、その作製過程を把握することを指す。地名など地図そのもの含まれる情報だけでなく、いかなる地域が優先的に複製・作製されたのか、さらにはどの縮尺の地図作製をより重視したのかなどを追うことで、外邦図を複製・作製した主体(権力)の思考を跡づける。最後に、読解した情報を再びマッピングすることで、地理的想像力から捉えうる外邦図の系図を明らかにしようと試みる。

本稿では、立教大学アジア地域研究所所蔵の外邦図を分析対象とする。したがって、当時製版されたフランス領インドシナのすべて外邦図を対象としているわけではない。したがって分析結果に偏りが生じる可能性も否めない。しかし、後述するように、現時点で仏印の外邦図の網羅的な所蔵が確認できていないこと、立教大学では東南アジア地域の地図が中心的に蒐集されていたことを考慮すれば、本論を、今後の網羅的な分析の基礎的研究と位置づけることが可能であろう。

2. 仏印進駐の系譜

周知のように、帝国日本は、1940年9月末の北部仏印に進駐した。1937年に日中戦争を開戦した日本は、国際的にも孤立しつつあり、戦略的重要資源を求めて、当時南洋と呼ばれた東南アジア地域への侵略を企てた。

帝国日本がフランス領インドシナに対する政治的・軍事的興味をもった理由として、大きく3点が指摘されている。第1に、連合国側による国民党政府への補給ルートの遮断である。1937年に日中戦争が本格化した後、1938年に中国国民党政府は、本拠地を南京から重慶に移転した。その結果、国民党にとって、ハイフォン-ハノイ-広西省南寧、雲南省昆明のルートが重要な補給路となった。帝国日本は、国民党への補給路の断つ目的で1940年9月に北部仏印に進駐を開始した。

第2に、今後の南洋侵略のための布石である。帝国日本は、連合国側(特にアメリカ)との関係が悪化し続けるなかで、重要資源の一つである石油を求め、供給地としてイギリス領マラヤやオランダ領東インドに関心をもっていった。仏印進駐は、当該地域への侵略の布石に位置づけられた。

第3に、食糧補給地としてのフロンティア開拓である。欧米による植民地支配下の東南アジアにおいて、仏領インドシナは、食糧供給地としての役割を担っていた。南部のメコンデルタは、フランス当局が実施した水路掘削作業により、湿地帯の排水が可能となり可耕地へと変貌した。とくにメコンデルタ西部では、広大な領域が近代的土地所有権から見ると無主地に位置づけられ、大団地的な土地所有による米作が展開し、その収穫物の多くが輸出された。北部地域では、堤防補強を実施し、灌漑設備を整えることで、米作の集約化が進展した(e.g. 大塚、2000)。

食糧難に陥っていた日本は、すでに植民地開発によってインフラが整っていたインドシナ米をフランス人商社を残存させる形でコントロールし、対日輸出させた。インドシナ米の対日輸出は、仏印の主要な精米・輸出業者であった華僑の反発を受けつつも、1940年以降、その量を増加させていった(田淵、1980: 117-125)。

帝国日本は、以上のような目的のもと、北部仏印進駐の翌年、1941年6月には南部仏印進駐を開始し、7月には当時サイゴンに上陸し、仏領インドシナのほぼ全土を支配下に置いた。

3. 外邦図と立教大学所蔵の外邦図

小林によれば、外邦図は「1945（昭和20）年8月の第2次世界大戦の終結まで戦争や植民地経営にむけて作製されてきた」（小林、2009：2）地図とされ、前述のように、原則として軍事目的に作製された。軍事における地図の重要性は、その作製を軍が担当する場合が多く、軍事秘密として場合によっては現在でも民間の使用制限が課せられていることにも現れている（小林、2009：3）。つまり、外邦図は植民地支配や戦争の趨勢を決定するひとつの重要なツールとみなされていた。

一連の外邦図は、終戦後、ほとんど顧みられることがなかった。その理由として、外邦図が戦争や植民地という結びつき、暗い否定的なイメージをもたれたこと（久武・今里、2009：32；小林、2009：19）、明治期以来の地形図作製の主体であった陸地測量部や参謀本部が敗戦によって解体され、外邦図が焼却・接收され、消滅したと考えられてきたこと（久武・今里、2009：32）があげられる。

しかし、外邦図の一部は、国内外の諸機関に保管されていることが明らかになってきた（久武、2003；小林、2009）。特に東南アジアを中心とした地域に関する外邦図は、立教大学アジア地域研究所（旧、アジア地域総合研究施設）に所蔵されている。アジア地域総合研究施設の設立に尽力した別技によれば、「本学〔立教大学〕におかれた研究施設としては特に東南アジア地域に重点をおくこととし、これに関する研究の基礎的資料として8年間に図書約3500冊、各種地図約5000枚を蒐集」（別技、1967：181、〔 〕内は引用者）し、地図に関しては「東南アジア各地域における大縮尺の地形図（5万分の1、10万分の1など）および水路部作製の海図を中心」（別技、1967：182）に集めたという。また別技の専門とする研究分野が東南アジアであったため、立教大学では当該地域に重点をおいた基礎的研究資料の蒐集が行われた（別技、1967：180）。

ここから、アジア地域総合研究施設において、基礎的研究資料のひとつとして、東南アジアを中心とした外邦図が蒐集されたと予想される。同施設の外邦図は、旧資源科学研究所から分配された。外邦図の分配には、当時の同研究所の所員であった浅井辰郎が大きく貢献しているという（浅井、2007：5-6；久武、2003：15-18；久武・今里、2009：34-35）。

久武・今里の表Ⅱ-1-1（久武・今里、2009：36）から集計すると、当時の立教大学アジア地域総合研究施設には、1959年から1961年まで5回に分けて3632枚の外邦図が分配されている。つまり、先に別技の指摘した「各種地図約5000枚」の一部が外邦図であろう。また、外邦図の分配が始まった時期が1950年代末である理由として、占領体制の解除など外邦図をとりまく環境が緩和されてきたこと、日本の海外学術調査が再開され、入手困難な地形図に代わり、外邦図の資料的価値が認められたことが指摘されている（久武・今里、2009：37）。

4. 仏領インドシナの外邦図

資料として、立教大学アジア地域研究所が所蔵する仏領インドシナの外邦図のデータベースを論文末に示した。アジア地域研究所所蔵の外邦図のデータベースについては、すでに立教大学アジア地域研究所（2014）として公開されている。ここでは、そのデータをもとに、外邦図の地図情報のうち本論の分析に必要な情報を追加して示した。

まず、基本情報を確認すると、同研究所所蔵の仏印の外邦図は、全部で167枚となっている。縮尺を確認すると、10万分の1（132枚）、40万分の1（6枚）、50万分の1（29枚）の地図が存在する。したがって、相対的にみて大縮尺の地図を中心に複製や製版していたことがわかる。また、地図の印刷では、黒の単色刷りから5色刷りまでが確認できる。

測量機関は、空白になっている7枚を除いて、すべてインドシナ総督府地理局となっている。ここから帝国日本が作製した仏領インドシナの外邦図は、原則としてフランス植民

地当局が測量したものを複製していたことがわかる。製版・印刷機関は、空白の1枚を除くと、陸地測量部・参謀本部が併記されているものが118枚、参謀本部のみ記載したものが48枚である。

製版時期を確認すると、空白の1枚を除き、1940年（昭和15年）6月、7月、8月、9月、1941年（昭和16年）2月、3月、9月、1943年（昭和18年）、1945年（昭和20年）の合計9パターンが存在している。1940、41年（昭和15、16年）については、発行月まで記載されているのに対して、1943、45年（昭和18、20年）はその記載がない。ここで注目すべき点として、北部仏印進駐以前に外邦図が製版されていた事実であろう。1940年9月の北部仏印進駐の約3ヶ月前には、仏領インドシナ外邦図は発行され始めていた。フランス植民地当局が測量して作製した地図を何らかの形で入手し、それを複製等したことを考慮すると、製版年月よりもかなり以前から地図の接收等が進められていたと推察できる。同時に、終戦にあたる1945年（昭和20年）まで製版され続けていた事実も確認できる。

また、凡例・地名などの情報についてみると、日本語のみで記載されている場合、日本語とフランス語が併記されている場合、フランス語のみで記載されている場合の3パターンが存在する。

さらに、仏印の外邦図の特徴として、経度がグラードで表記され、かつパリ子午線を基準子午線としている点があげられる（小林、2011：8）。グラードとは、周知のようにフランス革命以降に、角度の単位として主にフランスで用いられ、1グラードが1直角（90度）の100分の1となる。しかし、実際には、あまり普及せず、フランスで使用されるにとどまった。

また、パリ子午線は、歴史的にみて、グリニッジ子午線と本初子午線の地位を競った経緯があった。そこでフランスは基準子午線としての「パリ子午線」に対する執着を示していた²。しかし、最終的には1884年の国際子午線会議でイギリスの（当時の）グリニッジ天文台が本初子午線として制定され、現在に至っている。イギリスとフランスが本初子午線の座を争った背景には、当時における両国の帝国主義的な覇権争い関係していることが十分想像されよう。

さらに、フランスがよりパリ子午線にこだわりをもった理由として、1875年の国際地理学会で一度は基準子午線として認定された経緯があったとする指摘もある（高田、2004：6）。しかし、ハウス（2007）によれば、国際地理学会では、そうした具体的な決議がなされなかったとし、どちらかと言えばすでにグリニッジ子午線を基準子午線とする方向に傾倒していたとする（ハウス、2007：178-179）。ただ、ハウスは、1871年第1回国際地理学会において、フランス代表が「時代が17世紀か18世紀であったなら、当然パリ〔の子午線〕が〔本初子午線に〕選ばれていたはずである」（〔 〕内は引用者）や1875年第2回国際地理学会において「もしもイギリスがメートル法を受け入れることにするならば、フランスがグリニッジ子午線を採用するのは礼儀に適っている」などとの発言を紹介している（ハウス、2007：179）。ここから、本初子午線の決議をめぐって両国間で対抗意識が存在し、本初子午線の地位を競っていたことが十分伺える。実際、フランスではグリニッジ子午線が本初子午線となった会議後も、パリ子午線を基準として地図を作製していた³。

実際の外邦図を例にして示すと、10万分の1「サイゴン（Saigon）」（221号）の外邦図では、旧サイゴン市街地やや東側の経度が「東経116G」と記載されている⁴。ここで、Gはグラードを示している。グラードを現在の国際基準値に直すには0.9をかける必要があり、計算すると当該経度が東経104度24分となる。また、「東経116G」と記載された部分を、グーグルアースで確認すると、東経106度44分付近になることから2度20分の誤差が生じる。この2度20分のズレがグリニッジ子午線からパリ子午線までの経度を示している。

5. 外邦図から捉える仏印進駐の系図

表1に製版時期別・縮尺別の外邦図の所蔵枚数を示した。前述のとおり、相対的に大縮尺である10万分の1の外邦図が大多数を占めている。総数167枚のうち、約80%が10万分の1の外邦図である。戦争遂行時、より精緻な軍事行動を実行に移す場合には大縮尺の地図を必要とするものの現れであろう。

表1をみると、まず北部仏印進駐前までに大多数の10万分の1外邦図が製版されていることがわかる。1940年（昭和15年）9月までに、86枚が製版されている。10万分の1の外邦図に占める割合をみると65%になる。さらに南部仏印進駐が実行に移された1941年6月

までに製版された10万分の1の外邦図を確認すると105枚、約80%を占める。また、1940年（昭和15年）7月および9月に製版された40万分の1の外邦図（それぞれ3枚、2枚）を加えると、8割を超える外邦図が北部・南部仏印進駐以前に製版されていたことがわかる。

次に、製版年別にみた作製対象地域を確認すると、次の点がわかる。まず、昭和15年6月に製版された10万分の1の外邦図はそのほとんどが北部地域に集中していることがわかる。具体的な図幅名では、たとえば中国との国境付近をみると、西からライチャウ（Lai-Chau）、ラオカイ（Lao-Kay）、ハザン（Ha-Giang）、バオラック（Bao-Lac）、カオバン（Cao-Bang）、ランソン（Lang-Son）などがあげられる。また、ハノイ（Hanoi）、ヴェトチー（Viet-Tri）、バックニン（Bac-Ninh）などの紅河デルタの中枢部から、ハイフォン（Hai-Phong）、ナムディン（Nam-Dinh）、ヴィン（Vinh）、ハティン（Ha-Tinh）など北部沿岸地域の図幅も製版されている。

ここで興味深い点として、すでにこの時期にサイゴンとカントー（Can-Tho）という当時のコーチシナにおける二大都市の外邦図（各1枚）が製版されていることがあげられる。同時に仏領インドシナ南部の軍港の一つであったカムラン湾を含む外邦図（図幅名Cam-Linh）も含まれている。したがって、帝国日本の領土的興味がこの時点でインドシナ南部にまで拡張していたことも想定できる。

また、昭和15年7月に製版された40万分の1の外邦図は、いずれもインドシナ北部地域を対象としている。ここから、陸軍が北部仏印進駐に際して鳥瞰的視点の必要性を考慮し、40万分の1を複製・製版した可能性が考えられる。

これに対して、昭和15年8月に製版された外邦図は、インドシナ中部から南部を網羅している。具体的には、中部地域の図幅名では、北からクアンチー（Quang-Tri）、フエ（Hue）、クアンガイ（Quang-Ngai）、ニャチャン（Nha-Trang）、ファンラン（Phan-Rang）など、中部高原では、コントゥム（Kon-Tum）、バンメトート（Ban-Me-Thuot）、ダラット（Dalat）などがあげられる。南部コーチシナの図幅名では、ミトー（My-Tho）、ヴィンロン（Vinh-Long）、ソクチャン（Soc-Trang）、バクリュウ（Bac-Lieu）、カマウ岬（Pointe de Ca-Mau）などがあげられ、先のサイゴンとカントーの外邦図の重複がみられない。昭和15年9月の40万分の1の外邦図も、トゥーラーヌ（現、ダナン周辺）など中部以南の図幅名になっている。つまり視点を変えると、外邦図からみた「仏印進駐」は、北部仏印進駐以前に完了していたと捉えることもできよう。

その後、昭和16年2月、3月および昭和18年の外邦図では、昭和18年にベトナム南部の都市であるハティン（Ha-Tien）の図幅が存在するものの、全体としてベトナム領以外のフランス領インドシナ地域の図幅名が増加している。昭和18年の50万分の1では、サイゴンの

表1 製版時期別縮尺別にみる外邦図

	外邦図の枚数		
	10万分の1	40万分の1	50万分の1
昭和15年6月	46		
昭和15年7月		3	
昭和15年8月	39		
昭和15年9月	1	2	
昭和16年2月	10		
昭和16年3月	9		
昭和16年9月			8
昭和18年	27		
昭和20年			21

注：1枚（40万分の1）には製版時期の記載なし。

図幅名がみられ、昭和20年のそれは、ハノイ、ヴィン、ニャチャン、トゥラーヌ（現、ダナン）、ヴィンロンなど北部から南部まで網羅した外邦図が製版されている。

以上から、仏印進駐の進展の史実を先行しつつ、当該地域の外邦図が製版されていたこと、言い換えれば、北部地域から中部沿岸地域をへて南部地域に拡張する形式で外邦図が作製されていたことがわかる。なお、製版・印刷機関についてみると、1941年（昭和16年）9月までに製版された外邦図は、陸軍陸地測量部・参謀本部が作製主体になっているのに対して、1943年（昭和18年）以降のそれは、参謀本部が作製主体となっている。これは、第二次世界大戦の戦況や軍内部での組織改変などが関係している可能性が高い⁵。

次に、表2と表3に製版別・縮尺別にみた外邦図の凡例および地名に使用されている言語を示した。表3の凡例についてみると、大きな特徴を確認できないものの、大縮尺の地図では日本語のみが使用されているのに対して、小縮尺のそれでは原語（フランス語）と日本語が併記されていることがわかる。表3での顕著な傾向として、昭和16年9月以降に製版されたすべての外邦図において、使用言語がフランス語になっている。ここから、第二次世界大戦の敗戦が近づくにつれ、地図内部に記された地名に日本語を移植する作業をおこなう余力がなくなった可能性が考えられる。

なお、当時の陸地測量部や参謀本部には、ベトナム語の知識を有した人材がいなかったことが想定できる。理由として、地図に現れる地名の読みが基本的にローマ字読みされていることがあげられる。既出の地名で例をあげれば、Viet-Triがヴィト・トリー、Quang-Triがクアン・トリー、Nha-Trangがナー・トラン、Ban-Me-Thuotがバン・メ・テュオと日本語表記され、現代のベトナム語の発音とは異なっている。

表2 製版年別・縮尺別にみる外邦図の凡例の使用言語

	10万分の1			40万分の1			50万分の1		
	仏	日	併記	仏	日	併記	仏	日	併記
昭和15年6月	2	44							
昭和15年7月				1					
昭和15年8月		32							
昭和15年9月		1		1		1			
昭和16年2月		10							
昭和16年3月		9							
昭和16年9月									8
昭和18年		27							
昭和20年									21

注：表中「仏」はフランス語、「日」は日本語、「併記」は、フランス語と日本語の併記を示す。なお、昭和15年7月の40万分の1(2枚)、昭和15年8月10万分の1(7枚)、製版年不明の40万分の1(1枚)の合計10枚が凡例なし。

表3 製版年別・縮尺別にみる外邦図の地名の使用言語

	10万分の1			40万分の1			50万分の1		
	仏	日	併記	仏	日	併記	仏	日	併記
昭和15年6月	2		44						
昭和15年7月				3					
昭和15年8月			39						
昭和15年9月			1	2					
昭和16年2月			10						
昭和16年3月			9						
昭和16年9月							8		
昭和18年	27								
昭和20年							21		

注：表中「仏」はフランス語、「日」は日本語、「併記」は、フランス語と日本語の併記を示す。なお、製版年不明の40万分の1(1枚)の外邦図はフランス語のみの記載。

6. おわりに

本論文では、旧日本帝国軍が複製・作製した外邦図を手がかりとして、仏印進駐の空間的パースペクティブを明らかにすることを目的とした。結果として、以下の4点が明らかになった。

第1に、外邦図の作製・複製は、北部仏印進駐に先んずる形で進められていた点があげられる。製版年を確認すると、1940年6月版の外邦図を確認できる。北部仏印進駐が同年9月であることから、3ヶ月ほど先んじていたことになる。ここから、近代戦争における地図の重要性を確認できよう。ただし、視点をかえると、参謀本部は、それだけ重要な地図を仏印進駐の3ヶ月前まで準備できなかったとも捉えうる。この点の評価は分かれるかもしれないが、少なくとも仏印進駐に際して、参謀本部は、まず侵略する地域に関する地図情報を蒐集し、分析するという一般的な手順を踏んでいたことが確認できる。事実、全体の80%を超える外邦図が北部・南部仏印進駐以前に製版されていた。

第2に、作製・複製された外邦図は、製版時期に別にみると地域的な偏りがある点があげられる。昭和15年6月製版の外邦図は、そのほとんどがフランス領インドシナ北部に集中しており、現存する地図のなかでも大縮尺である。さらに翌7月には、当該地域の40万分の1の外邦図が製版されている。これに対して、昭和15年8月に製版されたそれは、そのほとんどがフランス領インドシナの中南部地域のものである。つまり、外邦図は、フランス領インドシナの北部から製版されはじめ、中部から南部へと拡張的に作製されてきたことがわかる。

第3に、こうした発行された外邦図の地域的偏差は、仏印進駐の歴史的プロセスと一致していることがあげられる。1940年の北部仏印進駐からはじまり、1941年の南部仏印進駐に至る過程で、ハノイ・サイゴンを中心とした両地域ならびに、船舶の移動に必要となる沿岸部の地図が網羅されていることがわかる。つまり、第二次世界大戦の混乱のさなかでも、組織的な地図の蒐集活動が実践され、それに基づき、それぞれの軍事目的に即した外邦図が作製・複製されていたことが想像される⁶。

最後に、外邦図にみる地理的想像力の視点から、以下の点を指摘できよう。まず、集団としての帝国日本は、フランス植民地当局の地図を複製したという点からみて、欧米の植民地支配からの解放を掲げ、大東亜共栄圏を謳ってはいたものの、欧米列強の植民地支配を焼き直したに過ぎなかったことがあげられる。確かに当時入手できる地図には制限があったことは事実であろう。したがって、植民地当局が測量した地図を流用する方法が合理的であったことは想像できる。しかし、前述のように、ベトナム語の地名をローマ字読みしていた点や地図に現れた植民地主義的視線を無批判に受け入れていたのであろう点を考慮すると、現地社会を捉える相対主義的な視点が欠けていた点は否めない⁷。

次に、帝国日本が空間的パースペクティブをもってフランス領インドシナを捉えていたことがあげられる。仏印進駐についての先行研究では、北部仏印進駐および南部仏印進駐という2つの史実のみが注目されてきた傾向がみられる。言い換えれば、北部（ハノイ）と南部（サイゴン）という2つの拠点から、点としての仏印進駐に関する分析が進められてきた。しかし、外邦図から当時の軍部の思考をたどり直すと、空間的広がりをもった視点が浮かび上がる。つまり北部と南部だけではなく、中部海岸線を含めたベトナム空間を想定していたといえよう。事実、海軍水路部は、ベトナム沿岸部の海図（当時は水路図）を外邦図の製版に先んじて作製しはじめている⁸。

つまり、外邦図からみると、帝国日本は、フランス領インドシナに対して植民地主義的なまなざしを向けながら、その軍事行動に際して「点の支配」という以上に俯瞰的な領域支配を試みていたといえよう。

付記：本論文は、研究分担者として、文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「21世紀海域学の創成—「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへ—」（研究代表者：上田信）の研究プロジェクトに参加した成果である。

注

- 1 荒山は、地理学的想像力を「社会の経験的事象に対して行われる、調査や研究、記述といった地理学や地理学者の具体的な実践そのもの」と捉えうるとも指摘している。
- 2 こうした「こだわり」の一例として、パリ子午線上に埋められたアラゴアのメダルがあげられよう。たとえば、堀江（2008）を参照。
- 3 現在でもフランスで発行される国内地図は、パリ子午線を基準子午線（経度0度）に設定しているものがある。例えば、筆者の手元にあるフランス国立地理院（現、フランス国立地理情報・森林情報院）発行の2万5千分の1「パリ」の地図を確認すると、パリ子午線が0度、かつグレード表記になっている。ただし、グリニッジ子午線を基準子午線とした経度も併記されている。
- 4 アルファベットの地名については、以後、外邦図のママとする。したがって現在のベトナム語表記とは異なる場合がある。
- 5 こうした作製主体の変化を追うことは、資料としての外邦図を分析する上で、不可欠な作業となろう。この点は今後の課題としたい。
- 6 ただし発行された外邦図の縮尺を考慮すると、製版された外邦図が実際の軍事的な使用に耐え得たのかについては、さらなる研究が必要となる。また、立教大学アジア地域研究所だけではなく、他機関所蔵の外邦図に関しても本稿と同じ視点からの分析が不可欠となろう。これらは今後の課題としたい。
- 7 たとえば、拙稿（大塚、2014）を参照のこと。同研究では、ホイアンを事例として外邦図が有する植民地主義的特徴を分析した（大塚、2014：12-13）。
- 8 フランス領インドシナ隣接海域の水路図は、1929年（昭和4年）をはじめにして、17枚が製版されている（立教大学アジア地域研究所所蔵分）。水路図の詳細は、論文末資料参照のこと。

引用文献

- 浅井辰郎（2007）：「資源科学研究所の地図の行方——多田文男先生の英断」お茶の水女子大学文教育学部地理学教室『お茶の水大学所蔵外邦図目録』お茶の水女子大学文教育学部地理学教室、5-11
- 荒山正彦（1998）：「まえがき」荒山正彦・大城直樹編（1998）：『空間から場所へ——地理学的想像力の探求』古今書院
- 大塚直樹（2000）：「植民地期ベトナムの地域分化——フランス土地政策との関連を中心として」『史苑』（立教大学史学会）Vol. 60-2、93-120
- 大塚直樹（2014）：「語られないホイアン」『樞：国際関係フォトジャーナル』Vol. 1、10-15ページ
- 加藤政洋（2002）：「グローバル化と地理学的想像力」『思想』Vol. 1（933）、94-107
- 小林茂（2009）：「近代日本の地図作製とアジア太平洋地域」小林茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域——「外邦図」へのアプローチ』大阪大学出版会、2-26
- 小林茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域——「外邦図」へのアプローチ』大阪大学出版会
- 小林茂（2011）：『外邦図——帝国日本のアジア地図』中央公論新社（中公新書）

- 久武哲也（2003）：「旧資源科学研究所所蔵の外邦図と日本の大学・研究施設等所蔵の外邦図との系譜関係」『外邦図研究ニュースレター』No. 1、15-20
- 久武哲也・今里悟之（2009）：「日本および海外における外邦図の所在状況と系譜関係」小林茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域——「外邦図」へのアプローチ』大阪大学出版会、32-46
- 別技篤彦（1967）：「立教大学アジア地域総合研究施設」の設立」立教大学史学会編『立教大学史学会小史』（『史苑』100号特集）立教大学史学会、180-182
- 立教大学アジア地域研究所（2014）：『立教大学所蔵外邦図目録』立教大学アジア地域研究所
- 清水靖夫（2009）：「外邦図の嚆矢と展開」小林茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域——「外邦図」へのアプローチ』大阪大学出版会、27-30
- 白石昌也（1986）：「第2次大戦期の日本の対インドシナ経済政策」『東南アジア—歴史と文化—』15、28-62
- 白石昌也・古田元夫（1976）：「太平洋戦争期の日本の対インドシナ政策——その二つの特異性をめぐって」『アジア研究』23-3、1-37
- 高田準一郎（2004）：「〈わたしの授業実践〉時差の学習一日付変更線からアジアの地域を再考する—」『中学校 地図・地理のしおり』4月号、5-7ページ
- 田淵幸親（1980）：「日本の対インドシナ「植民地」化プランとその実態」『東南アジア—歴史と文化—』9、103-133
- 田淵幸親（1981）：「大東亜共栄圏」とインドシナ:食糧獲得のための戦略」『東南アジア—歴史と文化—』10、39-68
- ハウス、D.（2007）：『グリニッジ・タイム——世界の時間の始点をめぐる物語』橋爪若子訳、東洋書林
- 堀江敏幸（2008）：『子午線を求めて』講談社文庫
- 吉沢南（1986a）：『戦争拡大の構図——日本軍の「仏印進駐」』青木書店
- 吉沢南（1986b）：『私たちの中のアジア戦争——仏領インドシナの日本人』朝日新聞社

冊	File No.	地名等	記号	図幅名	縮尺	経度	緯度	横	縦	大きさ	色	測量期間	製版・印刷機関	製版時間	発行時期	様式	備考・特記記載情報	凡例表記	地名表記	等高線注記	機密度
1-2	50	仏領インドシナ	102	KAM-KEUT	1:100,000	113.4 ~114.2	G	63.5cm	84.5cm	中	5色(黄・青・ 緑・赤・赤)	1922~24年	参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1 緯度及び経度・経緯度は グラード式 緯度及び経度・経緯度は 原測図/十万分一七色刷 原測図/十万分一七色刷 リトの記載	日本語 (フオント・体裁 調整済み)	日本語 (フオント・体裁 調整済み)	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極	
1-2	51	仏領インドシナ	103	HUONG-RHE	1:100,000	114.2 ~115.0	G	63.5cm	87.5cm	大	4色(黄・青・ 緑・赤)	1909~25年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1 緯度及び経度・経緯度は グラード式	日本語	日本語	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極	
1-2	52	仏領インドシナ	104	HA-TINH	1:100,000	115.0 ~115.8	G	63.5cm	87cm	大	3色(黄・青・ 緑)	1909~10年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1 緯度及び経度・経緯度は グラード式	日本語	日本語	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極	
1-2	53	仏領インドシナ	105	BAN-POUNG	1:100,000	113.0 ~113.4	G	72.5cm	47cm	中	4色(黄・青・ 緑・赤)	1923年	参謀本部	昭和15年6月製版			1 緯度及び経度・経緯度は グラード式 緯度及び経度・経緯度は 原測図/十万分一七色刷 原測図/十万分一七色刷 リトの記載	日本語 (フオント・体裁 調整済み)	日本語 (フオント・体裁 調整済み)	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極
1-2	54	仏領インドシナ	106	PAK-HIN-BOUN	1:100,000	113.4 ~114.2	G	63cm	84.5cm	中	5色(黄・青・ 緑・赤・赤)	1923年	参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1 緯度及び経度・経緯度は グラード式	日本語	日本語	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極	
1-2	55	仏領インドシナ	107	WU-GIA	1:100,000	114.2 ~115.0	G	63.5cm	87.5cm	大	4色(黄・青・ 緑・赤)	1921~25年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1 緯度及び経度・経緯度は グラード式	日本語	日本語	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極	
1-2	56	仏領インドシナ	111	RON	1:100,000	115.0 ~116.0	G	67cm	105.5cm	大	3色(黄・青・ 緑)	1910~35年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1 緯度及び経度・経緯度は グラード式	日本語	日本語	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極	
1-2	57	仏領インドシナ	112	THAKHEK	1:100,000	113.6 ~114.2	G	76cm	62cm	中	5色(黄・青・ 緑・赤・赤)	1920~21年	参謀本部	昭和15年6月製版			1 緯度及び経度・経緯度は グラード式 緯度及び経度・経緯度は 原測図/十万分一七色刷 原測図/十万分一七色刷 リトの記載	日本語 (フオント・体裁 調整済み)	日本語 (フオント・体裁 調整済み)	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極
1-2	58	仏領インドシナ	113	MAHAXAY	1:100,000	114.0 ~115.0	G	63cm	84.5cm	中	4色(黄・青・ 緑・赤)	1920~22年	参謀本部	昭和15年6月製版			1 緯度及び経度・経緯度は グラード式 緯度及び経度・経緯度は 原測図/十万分一七色刷 原測図/十万分一七色刷 リトの記載	日本語 (フオント・体裁 調整済み)	日本語 (フオント・体裁 調整済み)	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極
1-2	59	仏領インドシナ	114	KE-BANG	1:100,000	115.0 ~115.8	G	64cm	87cm	大	3色(黄・青・ 緑)	1910~22年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1 緯度及び経度・経緯度は グラード式	日本語	日本語	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極	
1-2	60	仏領インドシナ	115	DONG-HOI	1:100,000	115.8 ~116.6	G	63.5cm	87.5cm	大	4色(黄・青・ 緑・赤)	1910~11年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1 緯度及び経度・経緯度は グラード式	日本語	日本語	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極	
1-2	61	仏領インドシナ	116	KENG-KABAO	1:100,000	113.8 ~114.2	G	72.5cm	53cm	中	4色(黄・青・ 緑・赤)	1912~21年	参謀本部	昭和15年6月製版			1 緯度及び経度・経緯度は グラード式 緯度及び経度・経緯度は 原測図/十万分一七色刷 原測図/十万分一七色刷 リトの記載	日本語 (フオント・体裁 調整済み)	日本語 (フオント・体裁 調整済み)	なし	極
1-2	62	仏領インドシナ	117	HUONG-PHALANE	1:100,000	114.2 ~115.0	G	63cm	65cm	中	5色(黄・青・ 緑・赤・赤)	1912~22年	参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1 緯度及び経度・経緯度は グラード式	日本語	日本語	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極	
1-2	63	仏領インドシナ	118	TCHEPONE(チエフネ)	1:100,000	115.0 ~115.8	G	63.5cm	87.5cm	大	4色(黄・青・ 緑・赤)	1911~22年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1 緯度及び経度・経緯度は グラード式 緯度及び経度・経緯度は 原測図/十万分一七色刷 原測図/十万分一七色刷 リトの記載	日本語	日本語	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極	
1-3	64	仏領インドシナ	119	QUANG-TRI(クワントリ)	1:100,000	115.8 ~116.6	G	64cm	87.5cm	大	3色(黄・青・ 緑)	1907~11年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1 緯度及び経度・経緯度は グラード式	日本語	日本語	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極	
1-3	65	仏領インドシナ	120	VAN-TRINH(ヴァンチン)	1:100,000	116.6 ~117.0	G	78.5cm	54.5cm	中	3色(黄・青・ 緑)	1924年発行	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1 緯度及び経度・経緯度は グラード式	日本語	日本語	曲線等距離/25メートル・100米等 二点曲線/100メートル・500米等 原測図/25メートル・100米等 リト	極	

冊	File No.	地名等	記号	頭橋名	橋尺	経度	縦	横	大きさ	色	測量期間	製版・印刷機関	版時間	発行時期	枚数	備考・特殊記載情報	凡例表記	地名表記	等高線注記
1-3	82	仏領インドシナ	174号までの2	SISOPHON(シソフオン)	1:100,000	G	111.2 ~112.0	84cm	84.5cm大	4色(黒・青・緑・赤)	1930~38年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年3月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	83	仏領インドシナ	159号までの1	KARABANH(カラバン)	1:100,000	G	112.0 ~112.8	84cm	85cm大	4色(黒・青・緑・赤)	1913~14年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	84	仏領インドシナ	165号	BAN-TUR(バントル)	1:100,000	G	117.3 ~118.1	84.5cm	86cm大	4色(黒・青・緑・赤)	1926~31年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	85	仏領インドシナ	166号までの3	LOVEA(ロヴェア)	1:100,000	G	111.6 ~112.0	79cm	54.5cm中	4色(黒・青・緑・赤)	1912~14年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	86	仏領インドシナ	167号までの1	BATTANG(バタンガ)	1:100,000	G	112.0 ~112.8	83.5cm	85cm中	4色(黒・青・緑・赤)	1912~14年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	87	仏領インドシナ	167号までの2	ANGKOR(アングール)	1:100,000	G	112.8 ~113.6	84cm	84.5cm大	4色(黒・青・緑・赤)	1912~13年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	88	仏領インドシナ	168号	PHNOM DEK(プナムデック)	1:100,000	G	113.6 ~113.8	79cm	54.5cm中	4色(黒・青・緑・赤)	1912~13年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	89	仏領インドシナ	173号	CHEO-REO(チェオレオ)	1:100,000	G	117.3 ~118.1	83cm	87.5cm大	4色(黒・青・緑・赤)	1927~30年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	90	仏領インドシナ	174号までの3	PALIN(パリン)	1:100,000	G	111.6 ~112.0	79cm	54.5cm中	4色(黒・青・緑・赤)	1910~11年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	91	仏領インドシナ	175・184号	BASSIN DU KRAPUEI(クラ ボエノ)	1:100,000	G	111.8 ~112.6	85cm	85cm中	4色(黒・青・緑・赤)	1928~30年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	2	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	92	仏領インドシナ	175号	MOING(モウ)	1:100,000	G	112.0 ~112.4	79cm	54.5cm中	4色(黒・青・緑・赤)	1932年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	93	仏領インドシナ	177号	KOMPONG-THOM(コム トム)	1:100,000	G	113.4 ~114.2	85cm	86.5cm大	4色(黒・青・緑・赤)	1910~11年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	94	仏領インドシナ	178号	PORONG(ポロン)	1:100,000	G	114.2 ~115.0	84.5cm	85cm大	4色(黒・青・緑・赤)	1910~12年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	95	仏領インドシナ	179号	SAMBORI(サムボール)	1:100,000	G	115.0 ~115.4	79cm	54.5cm中	4色(黒・青・緑・赤)	1911~12年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	96	仏領インドシナ	182号	BAH-ME-THUOT(バン メト)	1:100,000	G	117.3 ~118.1	84cm	87.5cm大	4色(黒・青・緑・赤)	1927年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	97	仏領インドシナ	183号	HON-KHOI(ホンコイ)	1:100,000	G	118.1 ~118.8	84cm	90cm大	4色(黒・青・緑・赤)	1923~30年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	98	仏領インドシナ	184号	CAP-VARELLA(カプヴァ レラ)	1:100,000	G	118.8 ~119.2	79cm	54.5cm中	4色(黒・青・緑・赤)	1923年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	99	仏領インドシナ	188号	KOMPONG-CHHANG(コム チャン)	1:100,000	G	113.3 ~114.2	85cm	85cm大	4色(黒・青・緑・赤)	1909~11年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	100	仏領インドシナ	189号	KRAU-CHMAR(クロー クマー)	1:100,000	G	114.2 ~115.0	85cm	85cm大	4色(黒・青・緑・赤)	1909~11年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り
1-3	101	仏領インドシナ	190号	KRAE(クラー)	1:100,000	G	115.0 ~115.4	79cm	55cm中	4色(黒・青・緑・赤)	1929~30年	陸地測量部、参謀本部	昭和16年2月製版	昭和16年2月発行	1	緯度・経度・経緯度 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等間隔(二十五メートル等)・ 大断り(五メートル等)・補助測り

冊	File No.	地名等	記号	頭題名	縮尺	緯度	経度	縦	横	大きさ	色	測量時間	製版・印刷機関	製版・印刷時間	発行時期	枚数	備考・特記記載情報	地名表記	等高線注記
1-3	102	仏領インドシナ	1938	DARLAC(ダラック)	1:100,000	117.3 ~118.1	63.50	88cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1927年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	103	仏領インドシナ	1944	NHA-TRANG(ナートラン)	1:100,000	118.1 ~118.9	63.50	93.5cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1924~30年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	104	仏領インドシナ	1938	KOMPONG-CHAM(コムポ ンチャン)	1:100,000	114.2 ~113.9	65	85.5cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1909~24年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	105	仏領インドシナ	2004	MINOT(ミネ)	1:100,000	115.0 ~115.8	65	85.5cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1927~30年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	106	仏領インドシナ	2014	BUDOP(ブド)	1:100,000	115.8 ~116.5	64.50	85cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1927~24年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	107	仏領インドシナ	2024	DANGIA(Dang)	1:100,000	116.5 ~117.3	62.50	64.5cm	大	4色(黒・青・赤・赤)	印度支那総督府地 理局	1911年調査	参謀本部	昭和15年製版		1	緯度・経度は日本語・ラテン式・体軸 (本図ハ1911年捺印地理 局調製ノ十万分一六色刷 刷印地色二枚表セルモノ 以上の記載)	日本語注記	
1-3	108	仏領インドシナ	2034	DAIAT(ダオ)	1:100,000	117.3 ~118.1	63.50	89.5cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1924~25年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	109	仏領インドシナ	2044	GAN-LNH	1:100,000	118.0 ~118.8	64.50	88cm	大	1色(黒)	印度支那総督府地 理局	1924年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	1925年12月再刷 緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語注記	仏語表記
1-3	110	仏領インドシナ	2114	CHAN-MI-HA(チャンミハ)	1:100,000	115.8 ~116.5	63.50	89.5cm	大	2色(黒・青)	印度支那総督府地 理局	1904年印刷	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	111	仏領インドシナ	2144	PHAN-RANG(ファンラン)	1:100,000	118.0 ~118.8	70.50	85.5cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1924年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	112	仏領インドシナ	2184	TAKEO(タケオ)	1:100,000	113.4 ~114.2	64	84.5cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1924~25年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	113	仏領インドシナ	2194	SOA-FHENG(ソアフエン)	1:100,000	114.2 ~115.0	63.50	87.5cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1927年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	114	仏領インドシナ	2204	FRANG-BANG(ファンバン)	1:100,000	115.0 ~115.8	63.50	89.5cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1913~25年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	115	仏領インドシナ	2214	SAGOI(サイゴイ)	1:100,000	115.8 ~116.6	63.50	88cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1926年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	116	仏領インドシナ	2224	QUA-RAY(クアライ)	1:100,000	116.6 ~117.3	63.50	87.5cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1926~27年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	117	仏領インドシナ	2274	HAT-TEH	1:100,000	113.5 ~114.2	62.50	85.5cm	大	6色(黒・青・緑・赤・赤・赤)	参謀本部	1923年調査	参謀本部	昭和15年製版		1	緯度・経度は日本語・ラテン式・体軸 (本図ハ1923年捺印地理 局調製ノ十万分一六色刷 刷印地色二枚表セルモノ 以上の記載)	日本語注記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	118	仏領インドシナ	2284	MY-THO(マイト)	1:100,000	115.0 ~113.9	63.50	90cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1927年印刷	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	119	仏領インドシナ	2304	CAP-S-JAQUES(カプサン ジャック)	1:100,000	115.8 ~116.6	63.50	89.5cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1926年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	120	仏領インドシナ	2314	KUEN-MOC(クエンモク)	1:100,000	116.6 ~117.3	63.50	89.5cm	大	4色(黒・青・緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1926~27年	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明
1-3	121	仏領インドシナ	2324	PHU-QUONG(フクワン)	1:100,000	112.6 ~113.2	90	63.5cm	大	2色(黒・青)	印度支那総督府地 理局	1904年印刷	陸地測量所、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度・経度は日本語・ラテン式	日本語表記	曲線等距離八二五メートル等 大正二五米毎/補助線不明

冊	File No.	地名等	記号	図幅名	縮尺	経度		緯度	横	縦	大きさ	色	測量機関	測量時期	製版・印刷機関	製版時間	発行時期	枚数	備考・校外記載情報	凡例表記	地名表記	等高線注記		
						経	緯																	
I-3	122	仏領インドシナ	十方分一換領印度支那 233號	BACH-GIA(ラク・シア)	1:100,000	113.5 ~114.2	0	65.5cm	87.5cm	大	4色(黄・青・ 緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1910年製版	陸地測量部、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度ばかり基準・経緯度は グラード式	日本語	日本語表記	曲線等距離(二十五米)・五米等 八 五米等/補助線用フ			
I-3	123	仏領インドシナ	十方分一換領印度支那 234號	GAN-THO	1:100,000	114.2 ~115.0	0	64cm	86cm	大	4色(黄・ 赤)	印度支那総督府地 理局	1929年製版	陸地測量部、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度ばかり基準・経緯度 は仏語 グラード式	日本語	日本語表記	仏語表記			
I-3	124	仏領インドシナ	十方分一換領印度支那 235號	VINH-LONG(ヴィン・ロン)	1:100,000	115.0 ~115.8	0	65.5cm	89.5cm	大	3色(黄・青・ 赤)	印度支那総督府地 理局	1928年製版	陸地測量部、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度ばかり基準・経緯度 は日本語 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等距離(二十五米)・五米等 八 五米等/補助線用フ			
I-3	125	仏領インドシナ	十方分一換領印度支那 236號	QUA-TEU(クワ・チエウ)	1:100,000	115.8 ~116.2	0	76.5cm	54.5cm	大	4色(黄・青・ 緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1923年製版	陸地測量部、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度ばかり基準・経緯度 は日本語 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等距離(二十五米)・五米等 八 五米等/補助線用フ			
I-3	126	仏領インドシナ	十方分一換領印度支那 237號	HON RAI(ホン・ライ島)	1:100,000	113.5 ~114.2	0	63.5cm	90cm	大	2色(黄・青・ 赤)	印度支那総督府地 理局	1923年製版	陸地測量部、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度ばかり基準・経緯度 は日本語 グラード式	日本語	日本語表記	丸			
I-3	127	仏領インドシナ	十方分一換領印度支那 238號	SO-QUAO(ソ・クワオ)	1:100,000	114.2 ~115.0	0	63.5cm	89.5cm	大	3色(黄・青・ 赤)	印度支那総督府地 理局	1928年製版	陸地測量部、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度ばかり基準・経緯度 は日本語 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等距離(二十五米)・五米等 八 五米等/補助線用フ			
I-3	128	仏領インドシナ	十方分一換領印度支那 239號	SOC-TRANG(ソク・タン)	1:100,000	115.0 ~116.0	0	66cm	109.5cm	大	4色(黄・青・ 緑・赤)	印度支那総督府地 理局	1934年製版	陸地測量部、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	1928年印刷 緯度ばかり基準・経緯度 は日本語 グラード式	日本語	日本語表記	曲線等距離(二十五米)・五米等 八 五米等/補助線用フ			
I-3	129	仏領インドシナ	十方分一換領印度支那 240號	CA-MAU(カ・マウ)	1:100,000	113.5 ~114.2	0	64cm	89.5cm	大	2色(黄・青・ 赤)	印度支那総督府地 理局	1904年製版	陸地測量部、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度ばかり基準・経緯度 は日本語 グラード式	日本語	日本語表記	丸			
I-3	130	仏領インドシナ	十方分一換領印度支那 241號	BAC-LIEU(バク・リエウ)	1:100,000	114.2 ~115.0	0	63.5cm	89.5cm	大	2色(黄・青・ 赤)	印度支那総督府地 理局	1904年製版	陸地測量部、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度ばかり基準・経緯度 は日本語 グラード式	日本語	日本語表記	丸			
I-3	131	仏領インドシナ	十方分一換領印度支那 242號	BAC-LIEU EST(バク・リエウ東)	1:100,000	115.0 ~115.8	0	63.5cm	89.5cm	大	2色(黄・青・ 赤)	印度支那総督府地 理局	1904年製版	陸地測量部、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度ばかり基準・経緯度 は日本語 グラード式	日本語	日本語表記	丸			
I-3	132	仏領インドシナ	十方分一換領印度支那 243號	QUINTE DE CA-MAU(カ・マウ の五等分)	1:100,000	113.8 ~114.6	0	63.5cm	89.5cm	大	2色(黄・青・ 赤)	印度支那総督府地 理局	1904年製版	陸地測量部、参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	緯度ばかり基準・経緯度 は日本語 グラード式	日本語	日本語表記	丸			
I-1	133	仏領インドシナ	佛領印度支那北緯 右上部(共 同部)	佛領印度支那北緯 右上部(共 同部)	1:400,000	115 ~117	0	74cm	64cm	中	4色(黄・青・ 赤)													
I-1	134	仏領インドシナ	佛領印度支那北緯 右上部(共 同部)	佛領印度支那北緯 右上部(共 同部)	1:400,000	113 ~115	0	74cm	64cm	中	4色(黄・青・ 赤)													
I-1	135	仏領インドシナ	佛領印度支那北緯 右上部(共 同部)	佛領印度支那北緯 右上部(共 同部)	1:400,000	113 ~115	0	74cm	64cm	中	4色(黄・青・ 赤)													
I-1	136	仏領インドシナ	佛領印度支那北緯 右上部(共 同部)	佛領印度支那北緯 右上部(共 同部)	1:400,000	115 ~117	0	83.5cm	63cm	大	4色(黄・青・ 赤)													
I-1	137	仏領インドシナ	佛領印度支那40万分の 1図 8號	佛領印度支那40万分の 1図 8號	1:400,000	117 ~119	0	81cm	69cm	大	4色(黄・青・ 赤)													
I-1	138	仏領インドシナ	佛領印度支那40万分の 1図 10號(左)	佛領印度支那40万分の 1図 10號(左)	1:400,000	113 ~115	0	79.5cm	69cm	大	4色(黄・青・ 赤)													
I-1	139	仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の 1図 1號(右)	佛領印度支那60万分の 1図 1號(右)	1:500,000	110 ~112	0	64cm	54cm	中	4色(黄・青・ 赤)													
I-1	140	仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の 1図 1號(左)	佛領印度支那60万分の 1図 1號(左)	1:500,000	109 ~110	0	64cm	54cm	中	4色(黄・青・ 赤)													
I-1	141	仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の 1図 3號(左)	佛領印度支那60万分の 1図 3號(左)	1:500,000	120 ~122	0	64.5cm	54cm	中	3色(黄・青・ 赤)													
I-1	142	仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の 1図 3號(右)	佛領印度支那60万分の 1図 3號(右)	1:500,000	118 ~120	0	64cm	54cm	中	3色(黄・青・ 赤)													

冊 No.	地名等	記号	図幅名	縮尺		緯度	経度	横	縦	大きさ	色	測量期間	製版・印刷機関	製版時間	発行時期	枚数	備考・特記事項	凡例表記	地名表記	備考
				縮尺	緯度															
1-1	143 仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の1図 5枚(左)	コラト	1:500,000	G	113 ~115	84cm	83cm	4色(黒・青・茶・赤)	印度支那総督府地 理局	1937年調製	参謀本部	昭和20年製版		1	1. 石臼 緯度(北)基準・経緯度は 1937年印度支那 総督府地理院調製五十万 分一図/多包同型色二 色急須セルモナリとの 記載	仏語 — 日本語	日本語(元)		
1-1	144 仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の1図 6枚(右)	クアンチヤウ	1:500,000	G	120 ~122	64.5cm	54.5cm	4色(黒・青・茶・赤)	印度支那総督府地 理局	1937年調製	参謀本部	昭和20年製版		1	1. 石臼 緯度(北)基準・経緯度は 1937年印度支那 総督府地理院調製五十万 分一図/多包同型色二 色急須セルモナリとの 記載	仏語 — 日本語	日本語(元)		
1-1	145 仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の1図 6枚(左)	クアンチヤウ	1:500,000	G	118 ~120	64cm	54cm	4色(黒・青・茶・赤)	印度支那総督府地 理局	1937年調製	参謀本部	昭和20年製版		1	1. 石臼 緯度(北)基準・経緯度は 1937年印度支那 総督府地理院調製五十万 分一図/多包同型色二 色急須セルモナリとの 記載	仏語 — 日本語	日本語(元)		
1-1	146 仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の1図 8枚(右)	クアン	1:500,000	G	115 ~117	66cm	56cm	4色(黒・青・茶・赤)	印度支那総督府地 理局	1941年調製	参謀本部	昭和20年製版		1	1. 石臼 緯度(北)基準・経緯度は 1941年印度支那 総督府地理院調製五十万 分一図/多包同型色二 色急須セルモナリとの 記載	仏語 — 日本語	日本語(元)		
1-1	147 仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の1図 9枚(右)	クアンチヤウ	1:500,000	G	120 ~122	65cm	54cm	4色(黒・青・茶・赤)	印度支那総督府地 理局	1937年調製	参謀本部	昭和20年製版		1	1. 石臼 緯度(北)基準・経緯度は 1937年印度支那 総督府地理院調製五十万 分一図/多包同型色二 色急須セルモナリとの 記載	仏語 — 日本語	日本語(元)		
1-1	148 仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の1図 9枚(左)	クアンチヤウ	1:500,000	G	118 ~120	64cm	54cm	4色(黒・青・茶・赤)	印度支那総督府地 理局	1937年調製	参謀本部	昭和20年製版		1	1. 石臼 緯度(北)基準・経緯度は 1937年印度支那 総督府地理院調製五十万 分一図/多包同型色二 色急須セルモナリとの 記載	仏語 — 日本語	日本語(元)		
1-1	149 仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の1図 10枚(右)	コラト	1:500,000	G	110 ~112	79.5cm	63cm	4色(黒・青・茶・赤)	印度支那総督府地 理局	1938年調製	陸海軍部 参謀本部	昭和16年9月発行		1	1. 石臼 緯度(北)基準・経緯度は 1938年印度支那 総督府地理院調製五十万 分一図/多包同型色二 色急須セルモナリとの 記載	仏語 — 日本語	日本語(元)		
1-1	150 仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の1図 10枚(左)	コラト	1:500,000	G	108 ~110	78.5cm	54cm	4色(黒・青・茶・赤)	印度支那総督府地 理局	1938年調製	陸海軍部 参謀本部	昭和16年9月発行		1	1. 石臼 緯度(北)基準・経緯度は 1938年印度支那 総督府地理院調製五十万 分一図/多包同型色二 色急須セルモナリとの 記載	仏語 — 日本語	日本語(元)		
1-1	151 仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の1図 12枚(右)	トゥラース	1:500,000	G	120 ~122	64.5cm	54cm	4色(黒・青・茶・赤)	印度支那総督府地 理局	1937年調製	参謀本部	昭和20年製版		1	1. 石臼 緯度(北)基準・経緯度は 1937年印度支那 総督府地理院調製五十万 分一図/多包同型色二 色急須セルモナリとの 記載	仏語 — 日本語	日本語(元)		
1-1	152 仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の1図 12枚(左)	トゥラース	1:500,000	G	118 ~120	64cm	53.5cm	4色(黒・青・茶・赤)	印度支那総督府地 理局	1937年調製	参謀本部	昭和20年製版		1	1. 石臼 緯度(北)基準・経緯度は 1937年印度支那 総督府地理院調製五十万 分一図/多包同型色二 色急須セルモナリとの 記載	仏語 — 日本語	日本語(元)		
1-1	153 仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の1図 13枚(右)	バーンコー	1:500,000	G	110.5 ~112.5	80cm	63cm	4色(黒・青・茶・赤)	印度支那総督府地 理局	1938年調製	陸海軍部 参謀本部	昭和16年9月発行		1	1. 石臼 緯度(北)基準・経緯度は 1938年印度支那 総督府地理院調製五十万 分一図/多包同型色二 色急須セルモナリとの 記載	仏語 — 日本語	日本語(元)		
1-1	154 仏領インドシナ	佛領印度支那60万分の1図 13枚(左)	バーンコー	1:500,000	G	109 ~110.5	78.5cm	54cm	4色(黒・青・茶・赤)	印度支那総督府地 理局	1938年調製	陸海軍部 参謀本部	昭和16年9月発行		1	1. 石臼 緯度(北)基準・経緯度は 1938年印度支那 総督府地理院調製五十万 分一図/多包同型色二 色急須セルモナリとの 記載	仏語 — 日本語	日本語(元)		

付表2 立教大学アジア地域研究所蔵のフランス領インドシナ近海の海図(水路図)一覧

欄	file No.	海域名等	記号	図幅名	縮尺	緯度		経度		大きさ	色	測量機関	測量時期	発行期間	刊行時期	発行時期	枚数	原図	付属図						
						緯度	分	秒	経度											度	分	秒			
水路図	704	南支那海	第704號	サイゴン河至バダラン岬	1:250,000	N	9	55	~11	24	E	106	57	~109	~10	特大	1色(黒)	仏国海軍	1907~1929年	水路部	昭和8年2月	昭和8年3月	1	仏国海図(1917~1930年)	セシル・ド・メール島(1:60,000)カナン岬地(1:50,000)
水路図	705	南支那海	第705號	カムフラ港	1:10,000	N	20	58	~21	~2	E	107	20	~23	~00	特大	1色(黒)	仏国	1922~1923年	水路部	昭和8年11月	昭和8年11月	1	仏国海図(1926年)	なし
水路図	706	佛領印度支那	第706號	ファン・ラ	1:50,000	N	11	21	~39		E	108	56	~109	~9	大	1色(黒)	仏国	1930年	水路部	昭和13年4月	昭和13年4月	1	仏国海図(1932年)	フュン・ガン湾(1:12,500)バダラン岬北岸岬地(1:12,500)
水路図	707	交趾支那	第707號	シヤム島及フアイホー河口	1:27,500											特大	1色(黒)	—	—	水路部	昭和4年9月	昭和4年10月	1	仏国海図(1927年)	シヨウ・メイ湾(1:27,500)ローン・エノアル湾及リュエタン湾(1:27,500)
水路図	708	佛領印度支那	第708號	クシュア	1:50,000	N	15	50	~16	00	E	108	17	~32	~30	特大	1色(黒)	仏国	1929年	水路部	昭和11年10月	昭和11年10月	1	仏国海図(1929年)	クエ・モン湾口(1:20,000)
水路図	709	南支那海	第709號	安南海湾	1:700,000	N	17	48	~22	00	E	105	30	~112	~00	特大	1色(黒)	—	—	水路部	昭和12年6月	昭和12年7月	1	英国海図(1933年)	南湾(1:49,590)
水路図	711	南支那海	第711號	クール	1:70,000	N	20	35	~21	00	E	106	59	~107	~37	特大	1色(黒)	仏国海軍	1905~1933年	水路部	昭和12年10月	昭和12年10月	1	仏国海図(1935年)	なし
水路図	712	支那海	第712號	キ・ノン港	1:25,000	N	13	40	~49	~6	E	109	10	~17	~12	大	1色(黒)	仏国	1926年	水路部	昭和6年1月	昭和6年2月	1	仏国海図(1928年)	なし
水路図	714	南支那海	第714號	ラク・ギア	1:250,000	N	19	55	~21	20	E	105	47	~108	~00	特大	1色(黒)	仏国・印度支那政府	1934年迄	水路部	昭和12年1月	昭和12年1月	1	仏国海図(1935年)	なし
水路図	716	南支那海	第716號	バダラン	1:250,000	N	10	31	~12	~42	E	108	40	~110	~10	特大	1色(黒)	仏国	1902~1930年	水路部	昭和9年12月	昭和9年12月	1	仏国海図(1915~1933年)	なし
水路図	717	佛領印度支那	第717號	カムラン湾	1:32,500	N	11	42	~12	~00	E	109	5	~17	~10	特大	1色(黒)	仏国	1907・1909年	水路部	昭和11年9月	昭和11年9月	1	仏国海図(1935年)	なし

棚	file No.	海域名等	記号	図幅名	縮尺	緯度		経度		大きさ	色	測量機関	測量時期	発行期間	刊行時期	発行時期	枚数	原図	付属図
						緯度	緯度	経度	経度										
水路図	719	南支那海 交趾支那	第719號	サイゴン 河及び付 近	1:72,350	N 9 ~ 10	E 106 ~ 107	40 ~ 7	特大	1色(黒)	仏国	1935年迄	水路部	昭和13年4月	昭和13年4月	昭和13年4月	1	仏国海図(～1937年)	サイゴン港 (1:15,000) コライユ堆 (1:10,000) ミト泊地 (1:50,500)
水路図	720	南支那海 印度支那	第720號	アン・ヨ 至オン島	1:250,000	N 14 ~ 15	E 108 ~ 110	00 ~ 15	特大	1色(黒)	仏国	1937年迄	水路部	昭和19年2月	昭和19年2月	昭和19年4月	1	仏国海図(～1939年)	カン 島(カン 島) (1:50,000)
水路図	726	南支那海	第726號	プロ・コ トル群島 至サイゴ ン河	1:250,000	N 8 ~ 10	E 105 ~ 107	50 ~ 19	特大	1色(黒)	仏国	1936年迄	水路部	昭和15年2月	昭和15年2月	昭和15年2月	1	仏国海図(1937年)	—
水路図	727	南支那海 安南海湾	第727號	ハイフ オン 付近	1:70,000	N 20 ~ 21	E 106 ~ 107	33 ~ 11	00 特大 ~ 30	1色(黒)	仏国	1905～1928年	水路部	昭和8年10月	昭和8年11月	昭和8年11月	1	仏国海図(1930年)	ハイフ オン (1:25,000)
水路図	728	南支那海	第728號	オビ島 至 トル群島	1:250,000	N 7 ~ 9	E 104 ~ 106	23 ~ 42	特大	1色(黒)	仏国	1878～1923年	水路部	昭和7年2月	昭和7年3月	昭和7年3月	1	仏国海図(～1928年)	—
水路図	729	支那海	第729號	プロ・コ トル群島	1:50,000	N 8	E 106	28 ~ 45	30 特大 ~ 30	1色(黒)	仏国	1922～1923年	水路部	昭和5年5月	昭和5年5月	昭和5年5月	1	仏国海図(1928年)	—